

木林 和彦

東京女子医科大学医学部法医学講座 主任教授

都市部における高齢者死亡事故予防のための事故発生現場の調査分析

都市部における高齢者死亡事故の特徴を把握するため、全国、東京都 23 区及び佐賀県の過去 10 年間の高齢者死亡事故の統計を解析した。また、高齢者事故死の地域差を調べるため、各都道府県の高齢者の事故死を種類別に集計した。さらに、東京都 23 区の高齢者等死亡事故現場を視察し、発生現場の環境要因を検討した。その結果、東京都 23 区では転倒・転落による死亡が増加し、死亡事故は駅や公共の建物内で発生していた。東京都 23 区ではビルや駅などの建造物が多いことが転倒・転落が多い理由と考えられた。従って、都市部における高齢者死亡事故対策には転倒・転落を防止する環境整備が必要である。また、佐賀県の高齢者事故死は溺死及び溺水が増加しており、各都道府県の事故の種類別の解析結果では高齢者死亡事故には地域差があり、地域の特性に応じた高齢者の事故防止対策が必要と考えられた。なお、全国の高齢者の労災事故死亡者数は減少し、業種別では建設業の死亡者数が減少していた。また、東京都 23 区の高齢者の中毒死とその他の事故死ではアルコール中毒、麻薬・精神変容薬中毒、凍死が多い傾向にあった。